

## 図書館長挨拶



小樽商科大学附属図書館長  
理事(総務・財務担当副学長)  
和田 健夫

大学の附属図書館には、学術情報サービスと学生の教育支援という2つの機能・役割があるといわれてきました。学術情報サービスとは、学術文献や各種資料を系統的に収集し、大学の教育研究のために提供すること、教育支援とは、学生のために文献や学習の場を提供し、必要な学習支援を行い、知的環境を整備することをいいます。

近年のICT化の進行は、附属図書館の伝統的なこれらの機能・役割に変化をもたらしつつあります。学術文献の電子化や電子書籍の普及は、すべての人が、いつでもどこからでも、端末を通じて情報にアクセスすることを可能にします。印刷された冊子体や書籍は段々不要となり、必然的にそれらを保存して公開する附属図書館自体の存在意義が問われることとなります。

今後各大学は、このような状況を踏まえ、大学が置かれている状況、教育目的などに照らして、附属図書館のありかたを探っていかなければなりません。

小樽商科大学は、学生や地域の人々の知的な営み（学習、自己研鑽、交流など）およびそのための発信の場としての附属図書館を大切にしていきたいと思えます。また、2010年8月には、本学に関する歴史的史料を保存・公開する史料展示室を開設いたしました。

海側に面した閲覧室の窓からは小樽の町並みと石狩湾が一望できます。そこから何か生まれることを期待しています。

